

上牧町社会福祉協議会地域福祉活動計画 第2回策定委員会
会 議 次 第

平成27年12月21日
上牧町役場3階委員会室

1. 開会

2. 前回からの経緯について

(資料3)

3. 団体ヒアリング等について

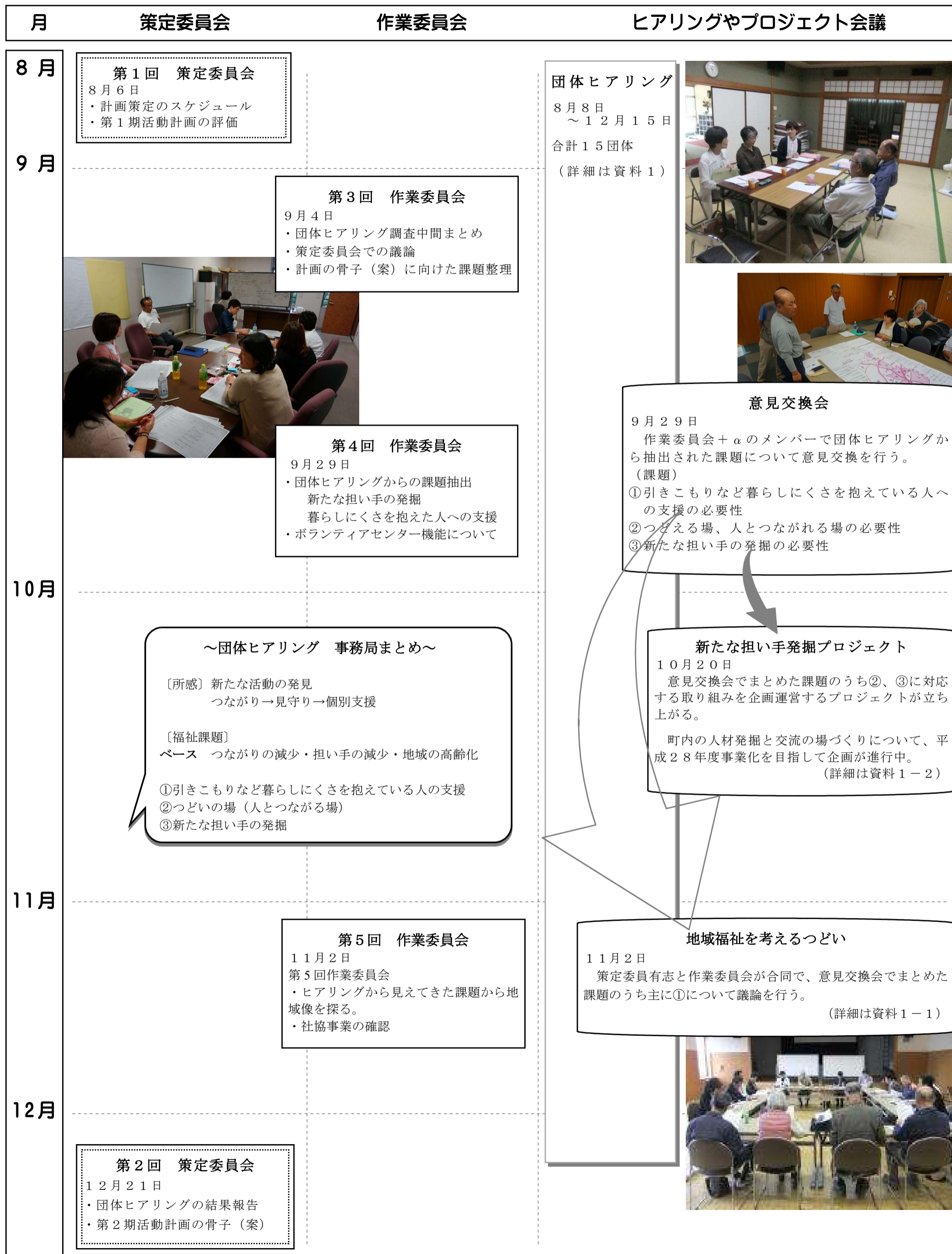
(資料1、1-1、1-2)

4. 第2期地域福祉活動計画の骨子(案)について

(資料2)

5. その他

第1回策定委員会以降の経過



第2期地域福祉活動計画 団体ヒアリング

【日程】

- 8月 8日(土) 小地域ネットワーク かりん(桜ヶ丘2丁目)
- 8月19日(水) 小地域ネットワーク 滝川台ネットワーク(滝川台)
- 8月20日(木) 上牧町ボランティア連絡協議会
- 8月21日(金) 小地域ネットワーク アーバンうきうきネット(アーバン)
- 9月 1日(火) NPO法人楽しいまちづくりの会
- 9月 2日(水) 小地域ネットワーク 桜三会(桜ヶ丘3丁目)
- 9月14日(月) 小地域ネットワーク さくらんぼ(桜ヶ丘1丁目)
- 9月16日(水) 小地域ネットワーク 虹の会(米山台)
- 9月17日(木) 小地域ネットワーク 遊ingはっとり(服部台)
- 9月18日(金) 民生児童委員協議会
- 9月27日(日) 小地域ネットワーク グリーンネット(緑ヶ丘)
- 9月27日(日) 小地域ネットワーク しもまきネット(下牧)
- 10月5日(月) 子育てサロンぽけっと参加者
- 12月1日(火) 小地域ネットワーク ふれあいの会(松里園)
- 12月15日(火) 自治連合会

団体名	かりん(小地域ネットワーク)		
活動内容	かりん主催	秋の小旅行(11月)	・「かりんだより」にて周知 ・町バスを利用→約30名の参加
		食事会(1月)	・すべて世話人の手作り→約20名参加
	自治会主催	ウォークラリー(5月)	・世話人が担当者として参加→約50名参加
		桜ヶ丘まつり	・模擬店(一銭焼き)で参加
		軽スポーツ大会	・世話人が担当者として参加→約50名参加
		餅つき大会	・世話人が担当者として参加→約200名参加
	子ども会主催	ボーリング大会	・引率のお手伝い
		ラジオ体操	・見守りを兼ねて
活動して良かったことや楽しかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・気の置けない仲間と時を過ごせること ・自治会やシルバークラブなどでは出来ないことが出来る。 ・世代間交流が出来る→小さい頃からの関わりで高校生になっても挨拶してくれる。 ・健康維持が出来ている。 ・住民同士の交流から気にかけてくださる方も出来、安心して暮らすことが出来る。 ・人のためにさせて戴けていることが嬉しい。 ・活動を行うことによって地域が活気づけられているように感じる。 		
活動をしていて課題になっていること	<ul style="list-style-type: none"> ・介護サービスを利用されている方への対応が今一わかっていない。 ・若い世話人がいないこと。→働いている世代には入ってもらえない。 ・年間スケジュールが毎年同じであること。 ・地域住民の現状把握が出来ていない。→わかかっていても両隣と前3軒の5軒くらいが限界。 		
この活動を通して気になること	<ul style="list-style-type: none"> ・社協が認知されていない。 ・行政と社協の連携が必要だ。→もっと住民に寄り添ってほしい。 ・高齢者独居世帯の安否確認 ・独居高齢者へのサポートの方法 ・活動を通して、関わりが無いと家庭内のことがわからない。関わりをちょっと持つと困りごとが見えてくる。 		

団体名	滝川台ネットワーク(小地域ネットワーク)
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・春の食事会 ・ふれあい社協まつり ・七夕お楽しみ会 ・夏休みお楽しみ会 ・タウンウォッチング ・押し花カレンダー作り ・年賀状作成投函 ・操体
活動して良かったことや楽しかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人の顔が見える。 ・顔見知りが増える。 ・20年以上活動してきて、滝川台を離れた方から感謝の気持ちが書かれたはがきをいただいたことが一番嬉しかった。 ・滝川台の方々の笑顔が見られる。 ・やりがいがある。 ・子ども達の成長が見られる。 ・滝川台ネットワークのことを理解してくれている方々の存在。
活動していて課題となっていること	<ul style="list-style-type: none"> ・活動者がいない。 ・「人のために」と思って活動してくれる方がいない。 ・滝川台ネットワークの存在を理解してくれない方々への関わり方。 ・資金不足のため、行事を増やすことが出来ない。(参加費を戴き継続を試みている状況) ・男性の参加者が少ない。(もともと少ない中、男性独りでの参加となると次に続かない。) ・いざという時に助け合いができないと思う。 ・近所でお葬式があったことが後日に分かることがあり、さみしい。希薄。 ・顔は分かっているが、話ができないという今一歩踏み込んだ関係になれていない。 ・以前はシルバーがあるのに小地域ネットワークはいらないとの声もあった。
この活動を通して気になること	<ul style="list-style-type: none"> ・隣の人にも何も言わず、黙って引っ越すこと。 ・高齢者世帯や独居世帯が増えた。 ・50代の男性両親との3人暮らし。10年ほど前から仕事をされていない様子家庭環境がわからない。 ・45歳の男性両親と3人暮らし。精神障害者でボランティア活動をしていると聞いている。父親とは話の出来る間柄 ・自治会との関係がここ2年悪く活動に対して理解が得られていない様子。(小ネットだけでは無く婦人会や子ども会に対しても) ・男子の参加にはきっかけが必要であると男性世話人が感じておられ、男性に対してのアプローチを模索されている。(参加者もそうだが世話人への参加も含められる。) ・世話人自身の家族には要介護者がおられ、一緒に参加出来るサロン活動であればと漏らされている。また、この地域でそのような方々が出会える場が出来ればと漏らされていた。 ・子ども会が無くなったこと。

団体名	上牧町ボランティア連絡協議会
活動をしていて課題となっている事	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体それぞれの活動と町V連の活動とをどう結びつけるのか。 ・各団体の活動内容が不明。(顔と名前は分かるが) ・個々にみるとやっていることがバラバラであるが、向く方向は同じでないといけない。 ・全体的に気持ちがバラバラ。いざという時にはつながりが必要であるから気持ちを揃えないといけない。 ・定例会は代表者だけでなく、メンバーも参加してほしい。 ・町V連に入るメリットがない。 ・ボランティアでも交通費は出すべき。 ・活動を知ってもらうための手段をどうしていくか。 ・ボランティアコーディネートの役割を担った窓口が必要。 ・上牧町の中でボランティアの窓口がいくつもあるが、一本化すべき。
今後の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・活動費用面で困っているかどうかのアンケートをとる。 ・ボランティア養成講座をしてボランティアを増やす。 ・ボランティア養成講座は講師を呼ぶだけでなく、町V連の紹介もする。 ・ボランティア養成講座のテーマは男性を対象としたものにする。(例: 木エクラブ・クラフトクラブ) ・町V連主催の講座の開催。 ・町V連主催の紹介コーナーを作る。(活動の様子を写真展示) ・各団体の年間スケジュールを書いて、どんな活動をするか・したかを町V連で共有する。 ・年3回くらい町V連として何か事業をして、外に向けてアピールする。 ・各団体の活動の様子を写真に撮ってそれをスライドショーで紹介する。

団体名	アーバンうきうきネット(小地域ネットワーク)		
活動内容	ネット主催	サロン(6,7,11,12,3月)	お花見や七夕、クリスマス会など
		ラジオ体操	子ども会の応援
	自主防災主催	AED講習(子ども会と)	西和消防署に依頼し開催。(参加者40名以上)
	シルバー会 主催	サロン開催	お手伝い
	自治会主催	アーバンフェスティバル	お手伝い
活動して良かったことや楽しかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶が出来る関係が出来ている。 ・楽しい催しが有り楽しい。 ・健康維持が出来る。 		
活動をしていて課題となっている事	<ul style="list-style-type: none"> ・住民に小ネットの理解を得られていない。 ・参加者が限られている。 		
この活動を通して気になること	<ul style="list-style-type: none"> ・母子家庭の世帯が多くなって来ている。(駐車を借りずに車を所有されている。等) ・高齢者世帯が増加している。(身内の近くに引っ越してこられる。) ・夫婦げんかをされてか、大声で怒鳴り警察だたになっている世帯もある。(女性、精神障害有り?) ・挨拶しても無視されたり、挨拶をすることを拒む対応をされ。(大体が新住民) 		

<p>団体名</p>	<p>NPO法人 楽しいまちづくりの会</p>	
<p>活動内容</p>	<p>町歩き</p>	<p>各自治会長と協働してその地区を歩いて回り「危険箇所マップ」づくりを行い行政に提案改善を促す。調査時には学生との協働した。</p>
	<p>滝川の再生</p>	<p>川の美化への取り組みから誰もが集うことの出来る「水辺のある公園」の実現し、上牧町のシンボル化へ向けて取り組んでいる。</p>
	<p>近代史勉強会</p>	<p>ささゆりルームの活用</p>
<p>活動して良かったことや楽しかったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での知り合いが出来た。 ・大学や学生とのつながりが出来た。 ・行政とのつながりが出来た。 ・上牧町には産業もない駅もないが、人という資源があり協働して活気ある町づくりが出来ると確信している。 	
<p>活動をしていて課題となっている事</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の参加が無く女性特有の課題に対して弱い。(子育て関係など) ・資金が少なく、新たな事業展開が出来にくい。 ・予算の問題。 ・まちづくりに関心をもっている人が少ない。 ・役場にまちづくりに詳しい人がいない。→役場にニーズを伝えても、違う部署に話が渡って、違う部署に話をしたら自分の部署は関係ないと後の確認もせずにいる。その話がどこへ流れたかも分からない。結局話が止まってしまう、まったく物事が進まないやりとりばかり。役場内の連携不足。 ・町同様、県も協力的でないこと。 ・ハード面は楽まちが、ソフト面を社協が担って連携して上牧町をよくしていきたい。 ・住民が抱えている問題に対して将来を考えながら解決に導いていかないといけない。 	
<p>この活動を通して気になること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題に敏感になってきた。 ・買い物問題(片岡台) ・空き家が目立つ。→庭の草木が生い茂って危ない。 ・最近、防犯灯やセンサーライトをつけている家が減ったように感じる。→防犯のため灯りをつけておこうという運動があったが、している家は減った。 ・独居高齢者が増えている。→見守り活動が必要かもしれない。→医師、看護師、社協職員で町を巡回していく活動をしていくほうがいい。 	

団体ヒアリング(9/2)

<p>団体名</p>	<p>桜三会(小地域ネットワーク)</p>	
<p>活動内容</p>	<p>サロン活動</p>	<p>・季節行事とサロン活動を行っている。周知は「桜三会ニュース」にて行い配布時に声かけも行っている。リピーターが多いが、興味のあるメニューには新しい方が参加されることもある。</p>
	<p>小旅行</p>	<p>・年2回住民の親睦を兼ねて企画運営までを行っている。町バスと民間のバス1回ずつ利用している。</p>
	<p>餅つき大会</p>	<p>子ども会との共催にて行っている行事。若い世代との交流にも繋がっている。</p>
	<p>桜ヶ丘まつり</p>	<p>・桜ヶ丘3丁で行う夏祭り。模擬店出店での参加を行っている。</p>
<p>活動して良かったことや楽しかったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・顔見知りが出来、地域住民の顔がわかってきて挨拶ができるようになった。 ・小ネットの世話人に誘われてから、様々な地域の団体との関わりが増え多くの地域活動に参加するきっかけがあり活動が広がった。 ・ピラ配りが体づくりになっている。 ・人のためにと行っているが実は自分のためになっている。 	
<p>活動していて課題となっていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動者が少ない。(サロンに参加したら世話人にならないといけなと思われている。) ・参加者が限定的になっているが、興味のあるものだけに参加する人もいる。 ・若い世代との関わりが薄い。 ・活動者に若い人がいない。 ・参加者が限定的な人ばかり。→人集めが難しい。 ・催し物のお誘いをしているが、来てくれるのはいつもの人。 ・3丁目だけでなく、1・2丁目の方にもお誘いしている。 ・活動時間に限りがある。→家の用事もあるため。 ・桜三会ニュースを全世帯に配布しているが、その際、居ることは分かるが居留守を使われることがある。そういう場合や不在の場合はメモをつけている。 ・自然と見守りはしているが、生活が見えないので異変に気づくまではできていない。 	
<p>この活動を通して気になること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・40代50代の男性が地域活動に参加が見られない。(何か働きかけが必要！) ・サロンなどに参加すると世話人をしなくてはならないと思っていて参加されない。 ・桜三会ニュースの配布時に必ずインターホンをならし声かけを行っておられ、見守り活動が行われているを知ることが出来た。 ・民生委員さんをしている世話人に気になる引きこもり男性1人暮らし(60代)を訪問したいが、躊躇する。(ご一緒しましょうと声かけを行う。) ・空き家が増えている。 ・将来、家事ができなくなったとき宅配サービスを利用することになるかなと考えるが、3日で飽きるとの声をよく聞く。同じようなご飯を食べ続けることになり、楽しみがなくなるのではと不安にもなる。 ・奈良交通や巡回バスがあるが、交通は不便。そのため買い物に行く時に一緒に地域の人を乗せて行くこともあるが、よくよく考えると何かあったときに不安。しかし、買い物へ行くにも大変な思いをしている人がいるから協力したいとの思いもある。 ・家に閉じこもっている人に少しでも外に出てきてほしい。→買い物に行くだけで人に会える、何を買おうかと考える。それだけで生活にはりが出る。 ・92歳。独居。以前は催し物に参加していたが、最近見られない。息子の嫁が週1回ご飯を届けに来ていたよう。 ・70代の夫婦。夫の方はよく見るが、妻の方は全く見ない。娘さんがいるが来ている様子はない。全く妻を見ないので、電話をかけたことがあり、その際は妻は引きこもりで、屋間は外に出ない。調理などはしているとおっしゃっていた。それから妻の姿は見られず、心配しているが何回も電話ができずにいる。 	

団体名	さくらんぼ(小地域ネットワーク)	
活動内容	さくらんぼ主催	餅つき大会 子ども会もお吸い物を提供し参加
	自治会主催	桜ヶ丘まつり 模擬店参加(おでん・ビール・ピーコックバルーン販売)
		フロアカーリング 体育館での軽スポーツ大会(主たる運営をしている)
子ども会主催	ラジオ体操 世話人が参加。子どもにお土産の用意	
活動して良かったことや楽しかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・普段関わりのない方とのふれあいがある。 ・若い方が参加され、知り合うきっかけとなっている。 ・桜ヶ丘まつりでおでんを煮てくださる方がいなくなっても、ちょっと声かけをすると「いいよ!」とお手伝いしてくださる方が出てきた。きっかけがあればボランティアしてくださることがわかった事。 	
活動をしていて課題となっている事	<ul style="list-style-type: none"> ・担当をこなすことだけを考え、負担になっている。 ・桜ヶ丘まつりでおでんを煮てくださっていた方が年齢を理由にお手伝いしてくださらないようになって不安である。 ・若い担い手がいない。 ・次世代の活動者がいないため、引き継ぎができない。 ・参加者はいつも決まった人ばかり。 ・地域で男女の枠を越えて何か活動していきたい。 ・行事が多いと活動者もしんどくなるから、ほどほどにできることだけをしている。 ・参加しやすいようなプログラム作り 	
この活動を通して気になること	<ul style="list-style-type: none"> ・70代夫婦40代前半の息子との3人暮らしの世帯。息子はこれまでに就職をされていたかどうかはわからないが、以前かうつ状態で家庭内暴力を起し警察沙汰になったこともある。その時は入院されていたようである。最近あまり近所では見かけないので入院されている可能性がある。 ・介護問題。 ・結婚しない若者。離婚して戻ってくる人。 ・生活困窮者について。 ・防災ネットワークをつくる。(全小ネットをつなぐ) 	

<p>団体名</p>	<p>虹の会(小地域ネットワーク)</p>		
<p>活動内容</p>	<p>虹の会主催</p>	<p>ふれあいサロン 食事会 七夕まつり ラジオ体操 見守り</p>	<p>・ゲームや体操などを盛り込んだサロン。欠席した方々には訪問して確認を行うこともある。 ・年に1回のお食事会で地域の芸達者が演芸を披露 ・子ども中心の催し。昔遊びを盛り込んだ異世代の交流 ・年中行っている催しだが夏休み期間は子ども達も参加。世話人の声かけにより40名ほどの参加有り。 ・2週間に1回だが町内の気になる方を見守る活動を行っている。</p>
<p>活動して良かったことや楽しかったこと</p>	<p>・道ばたで会っても、地域の方々に声かけを戴き、「有り難う。」や「ご苦労様。」など言っていたのが嬉しい。 ・見守りを長い人で13年行っていて、成人になった子や大学生などからも声をかけてもらえやりがいを感じる ・ラジオ体操を主催しているが、夏休み期間だけでなく通年行っている状況で朝から住民同士の交流の場が持てていることが嬉しい。</p>		
<p>活動をしていて課題となっている事</p>	<p>・異世代交流が出来にくい。→企画や周知などの難しさ ・世話人が高齢化してきて継続が難しくなっている。若い世代に参加してほしい。 ・男性陣が少なく、声かけしても参画して戴けない状況。もう2・3人男性の世話人が入ってほしい。 ・小ネットの活動を地域で理解してもらえてない。←参加に繋がらない。</p>		
<p>この活動を通して気になること</p>	<p>・高齢者世帯の増加(老夫婦のみの世帯が気にかかる。) ・Aさん。男性。奥さんが先日倒れて救急車で運ばれた。ご本人は呆然とされ会話が成り立たない状況であった。ご本人の生活のことが心配になった。 精神障害である50代の男性1人暮らし(最近両親世界)気にかかる。</p>		

<p>団体名</p>	<p>遊ingはっとり(小地域ネットワーク)</p>	
<p>活動内容</p>	<p>自治会主催</p>	<p>季節の行事 お月見会・地藏盆・秋の文化祭・旅行</p>
<p>活動して良かったことや楽しかったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行事のよくなった世話人が長年行っており、子ども会のメンバーも参加していてバランスがいい。 ・お帰り隊の活動から子どもとの関わりが深く、地域の子どもの名前や性格、交流関係など把握している。また、その活動から異世代の仲がとても良い。 ・地域の子子ども達が悪さをすると本気で怒る！しかし保護者からの信頼が高く、任せてもらえているところが嬉しい。 	
<p>活動をしていて課題となっている事</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世話人は70～80代になってきている。子ども会の役員は1年ごとに交代する等の問題もあり後継者の問題を抱えている。 ・地域に無関心な住民が多くなり、近所づきあいがしづらくなっている。 ・お帰り隊での活動では小学生との関わりが深いですが、それ以外の年齢になると関わりが薄くなっていく。 	
<p>この活動を通して気になること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校への通学時間が9:30頃になる子どもが2人いる。母子家庭の世帯と両親の仲が悪い世帯の子ども達である。学校でもそれはわかっているらしく、朝食を食べずに登校してくるが学校で食事が出来る様に配慮されているらしい。 ・高齢者の世帯が多くなってきている。独りで暮らしている高齢者が家で誰にも発見されず倒れているケースが頻発している。ちょっとした変化も見逃さないように近所の方々に声かけをしている。 	

団体ヒアリング(9/18)

<p>団体名</p>	<p>民生委員児童委員協議会(構成員:民生委員37名・うち主任児童委員2名)</p>
<p>活動内容</p>	<p>災害時にひとりも見逃さない運動＝要援護者台帳作成</p> <p>赤ちゃん誕生おめでとう活動(3ヶ月健診後の訪問)</p> <p>訪問や見守り:65歳以上独居・75歳以上老夫婦世帯・各委員が心配と思われる世帯(障害者・ポーター・子育て不安のある世帯)</p>
<p>活動して良かったことや楽しかったこと</p>	<p>・地域の問題について苦情なども入ってくるが、信頼して自宅の鍵を預けてくださること。</p>
<p>活動をしていて課題となっている事</p>	<p>・障害者のことは把握出来ていない。</p> <p>・毎年障害の関する研修会が行われていない。(福祉サービスを知るためにも必要)</p> <p>・行政からは障害に関する情報だけは入らない。</p> <p>・後継者がいない。(地域による)←責任はあるが権限がない。</p>

団体名	グリーンネット(小地域ネットワーク)	
活動内容	環境整備	・生活道路の草刈り
		・要望のあった家の草刈り(5軒)
		・空き地の草刈り
		・花壇の手入れ
		・危険箇所調べ
	交流	・そうめん流し、焼き肉
		・月2回公民館開放 卓球遊び
		・グランドゴルフ
	見守り	・安否確認
		・声かけ
・地域の見回り		
活動して良かったことや楽しかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・世話人が自分の持ち味を発揮している。 ・意見がでたら、できることはやっている。 ・グリーンネット、自治会、シルバークラブが連携できてまとまっている。 ・世話人は皆、自主的。 ・地域のことがよく分かる。 	
活動していて課題となっていること	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の世話人が少ない。 ・子どもとの交流が少ない。 ・活動者の募集。誘わないと入ってくれない。 	
この活動を通して気になること	<ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者 ・空き地の草 ・ゴミ問題(ゴミ置き場のゴミが散らかり汚くなっていたので、ゴミ回収箱を設置した。) ・公園の整備。 ・所在不明の家族。最近姿を全く見ていないので心配。 	

団体名	しもまきネット(小地域ネットワーク)	
活動内容	ウォーキング	・当日来たメンバーで出発。
		・男性の参加があり、新たなつながりができた。
		・9月27日開催の際には新しい人2名が参加してくれた。
	サロン	・小学生が2、3名いつも来てくれる。
		・小学生が違う地域の友達を連れて参加してくれる。
		・小学生と幼稚園児の交流がある。
	異世代交流	・ヨガ
		・夏祭り
		・餅つき
		・ドールハウス
防災	・ビンゴの景品として防災グッズを整える。	
活動して良かったことや楽しかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングに男性も参加してくれた。 ・「ウォーキングは絶対してほしい」との声があること。 ・自分達の好きなこと、やりたいことをしている。 ・ヨガも人気で、「楽しみにしている」との声もある。 ・家に居るだけでは会えない人との出会いがある。 ・ウォーキングの際に身体の話をしてくれる。→災害のときにそのときの情報が役立つ。 ・世代を超えた交流ができること。 	
活動をしていて課題となっている事	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバー世代や子ども会をどう取り込むか。 ・世代を超えた世話人がいないこと。 ・組織の枠を越えた交流ができていない。 	
この活動を通して気になること	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会の加入が少ない。 ・40代女性 母親と暮らしている。夜にウロウロしている姿をよく見る。警察沙汰になったこともある。 	

団体名	ぼけっと参加者
<p>こんな支援があればよかった(自分たちの困り事)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼけっとに来たことで発達障害であると分かった。専門的な知識を持った人や窓口が分からないため、他に地域で埋もれている人がいるのではないかと感じる。 ・専門的な知識が増えるようなグループやサークルがあればいい。 ・健診のときに子どもの情報を知りたい。 ・学童の充実。 ・上牧で子どもの遊べる場所がほしい。町外に出ないといけない。 ・ゲートボール場を子ども向けの場にしてほしい。 ・ぼけっとは1日やっているので入りやすい。 ・おひさま広場からぼけっとへ来た。保健師の訪問でおひさま広場を知った。 ・子どもが参加しやすいイベントがない。 ・地域の行事もいつも決まった人だけで集まっているので参加しにくい。仲間内でやっているように思う。知っている人がいればまだ参加しやすい。 ・イベントがあることは同世代の知り合いから知る。 ・子ども、高齢者、障害者が一緒に集える場がほしい。居場所づくりが必要。 ・地域で小ネットがしているサロンのことは知らない。知っても入りにくい。 ・用意された場所に強引にでも誘ってもらう方が参加しやすい。 ・ネットで「上牧 子ども」で社協がヒットするようにしたほうがいい。 ・ネットも写真を多くしたほうが分かりやすい。 ・同世代の子どもが100人くらいはいると聞いたが、まったく会わない。 ・母親同士のネットワーク作り。
<p>地域で気になること(地域全体の課題)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公園でも気になる子どもがいるが、声をかけられない。 ・地域で気になる子どもを埋もれさせないように。 ・幼稚園と保育所が一カ所に固まっている。 ・幼稚園、保育所、小学校内の防犯面。 ・公園が草も虫もいっぱいで行けない。 ・公園も午後からは小学生が遊ぶため、小さい子が遊べない。 ・2000年会館の周りに路駐が多い。駐車場まで行くのにスロープが一カ所しかないので不便。

団体名	ふれあいの会(小地域ネットワーク)	
活動内容	ふれあいの会	ミニ文化祭
		推進会議(役員会)
		七夕まつり
	他団体との共催	清掃活動(子ども会)
		世代間交流(子ども会・シルバークラブ)
		ラジオ体操(子ども会・シルバークラブ)
		納涼大会(自治会・子ども会・シルバークラブ)
	活動して良かったことや楽しかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・お手伝いの声かけをすれば活動してくれる方がいる。 ・世話人の病気などで事業が出来ないかなと思っていても世話人同士の結束力により出来ることが多い。 ・先に行われた座談会時の意見を尊重し、ふれあいの会の協力を惜しまないことを約束戴ける。 ・退陣した世話人が現在も気にしてくれていて応援してくれている。 ・地域で集う活動が出来てきている。(歌う会・カラオケ同好会)
活動していて課題となっていること	<ul style="list-style-type: none"> ・世話人同志の意見が合わない場合がある。 ・代表者が企画のすべてを担っている。→活動は協力的 	
この活動を通して気になること	<ul style="list-style-type: none"> ・引きこもりの男性(30代)が両親と共に暮らしている。 ・独居高齢者が増えてきている。(男性女性共に) 	

ヒアリング(12/15)

団体名	上牧町自治連合会	
参加者	井尻会長	
活動内容	行政との連絡調整	行政からの連絡事項の周知
		行政からの指示や要請事項の調整
		住民要望を集約し町へ要請
	防犯啓発活動	防犯啓発活動を各自治会に要請と啓発物品(ポスター・旗)の支給
	景観向上活動	滝川台での鯉のぼり
	行政や社協への協力	ペガサスフェスタでの模擬店出店
日本赤十字社社資募集・赤い羽根共同募金へ協力		
活動して良かったことや楽しかったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織が全域に出来た。 	
活動をしていて課題となっている事	<ul style="list-style-type: none"> ・地区により会長職の任期がバラバラで継続活動のみになっている。 ・役員のなり手が少ない。 ・財源が少なく、限られた活動のみになっている。 	
この活動を通して気になること	<ul style="list-style-type: none"> ・地域により活動に対する温度差がある。 	

地域福祉を考えるつどい

開催目的：第1回策定委員会で「策定委員会の回数が限られており十分に議論が深められないのではないか」との指摘を受け、策定委員会での議論の機会を補足するために開催。

11月2日（月）開催
策定委員 14名 ゲスト 1名
作業委員 1名 事務局 3名

内容：参加者全員で開催目的と事務局が実施中の団体ヒアリングの中間報告を確認した後、2つのグループに分かれて参加者各自が感じている上牧町の地域福祉課題について話し合う。

グループ 1

- ◆ 高齢者を巡るトラブル
 - ・ 高齢者による万引き
 - ・ 徘徊
 - ・ 交通事故被害
 - ・ 特殊詐欺による被害
→ 防止のため戸別に訪問しても出てきてくれない
 - ・ 孤独死
 - ・ 精神的不安による救急コール

啓発の場などに
「出てこない人」
認知症
つながりの減少

- ◆ 何でもないことが苦情に
 - ・ 関係性のない中での近隣トラブル（野焼き等）
→ 少しでも相手を知っていると許せる
↓
顔が見えないことでトラブルに発展

SOSを どう出しやすくする
どうキャッチするすか

- ◆ バリアフリーの問題
 - ・ 行きたいところへ自力で
移動困難



グループ 2

- ◆ 気になること
 - ・ スーパー撤退 買い物難民
 高齢者のつどいの場だった
 - ・ 若いお母さんの つながり力の低下
 公園デビューできないお母さん
 - ・ 「群れ遊び」の機会の減少
 様々な年齢の子どもが交流する機会の減少

- ◆ つながるための手立て
 - ・ 地域の清掃活動
 - ・ 小地域ネットワークが必要
核になる人が必要
 - ・ 地域内の情報共有
自治会、民生委員
小ネット等
 - ・ 誰もがつどえる“場”
づくり
勉強会やお祭りなど
 - ・ きっかけづくり
養護学校の生徒が職
場体験で幼稚園へ



新たな担い手発掘プロジェクト

9月29日に開催した意見交換会の際に課題として出された「つどえる場（人とつながれる場）づくり」と「新たな担い手の発掘」については、新たな担い手プロジェクトとして教養講座のような形式の事業として意見交換会に参加したメンバーによってプロジェクトを立ち上げることとなった。このプロジェクトでは、平成28年の事業化を目指して開催目的や事業対象などの詳細を検討し、企画後はプロジェクトメンバーが事業運営にも関わる。

第 1 回

10月20日

◆ 検討事項

○ 事業の位置づけ

「目的は生きがいつくり、交流の場と活動者の育成」

- ① 参加者の生きがいつくり
- ② 集まった人をつなげる仕組みづくり
- ③ 活動者の育成につながる仕組みづくり

○ 名称について

シニア層がターゲットであるがシルバーと言われると私に対象ではないと思う人もいるので「町民大学」（仮称）とする。

○ 対象

年齢や性別にかかわらず誰でも来られる場とする。

○ その他

講師は基本的には町内の人材。講座の最終回には交流できる内容を用意。

第 2 回

11月18日

◆ 検討事項

○ テーマ

「地域の活動に関わりの少ない人に対するアプローチ、全住民が参加できるような講座」

○ 目的や目標

- ・ 多世代が参加できるように講座の内容を工夫
例) 母親の地域デビューのきっかけ
- ・ 町の人財バンクの活用
- ・ 聴講生のように興味のある部分だけの参加も可能にして参加のハードルを下げる

○ 開催要項について

- ・ 日本近現代史講座とのコラボも

○ カリキュラムについて

- ・ 町のことを知るカリキュラム
- ・ 近隣の大学とコラボ

第 3 回

12月14日

◆ 検討事項

○ 運営体制

- ・ 社協だけでなく町とも連携していきたい
社会教育や教育委員会

○ カリキュラム

- ・ 月1回程度
- ・ 健康上牧21子どもグループとのコラボも



上牧町地域福祉活動計画骨子案

基本理念

基本目標

活動目標

実施事業

人と人が手を取り合って支え合うまちづくり

地域で顔の見える関係づくり

住民同士でつながりづくりや支え合い活動、見守り活動への支援を通じた地域で顔の見える関係づくり

自治会区を基盤とした小地域ネットワーク活動の充実

- ・小地域ネットワークの拡充
- ・見守り活動の支援

支え合い活動の充実

- ・災害に強いまちづくり
- ・地域交流の推進

だれもが地域に参加(社会参加)できる仕組みづくり

住民主体のまちづくりを目指し地域福祉を学ぶ場や住民同士の話し合いの場をつくり、誰もが地域活動へ参画できるしくみづくり

身近な地域での居場所づくり

- ・サロン活動の充実
- ・多様な人同士の集える場

学びの機会提供

- ・学童期を対象とした福祉プログラム
- ・活動のきっかけへと結びつく学習会

地域活動者への支援

- ・ボランティアセンター機能の強化
- ・活動者の横のつながり支援

暮らしの課題を受け止める相談体制の強化

地域を基盤としたニーズキャッチのしくみづくりの強化と各関係機関との連携による住民一人一人を支える包括的な生活支援の強化

ニーズ把握の充実

- ・地域を基盤としたアウトリーチ活動
- ・住民との関係づくり(ニーズキャッチ)
- ・課題を漏らさず受け止める体制づくり

関係機関の連携強化

- ・関係機関との情報共有によるケアシステム